

保証書

株式会社 カスタム

保証規定

本器は当社基準に基づく検査により合格したもので、下記の保証規定により保証いたします。

1. 保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じた場合は無償で修理いたします。

2. 本保証書は、日本国内でのみ有効です。

3. 下記事項に該当する場合は、無償修理の対象から除外いたします。

a 不適当な取扱い、使用による故障

b 設計仕様条件等を越えた取扱い、または保管による故障

c 当社もしくは当社が委嘱した者以外の改造または修理に起因する故障

d その他当社の責任とみなされない故障

型番	C-03	シリアルNo.	
保証期間	年 月 日 より1ヵ年		
お客様	お名前	様	
	ご住所		
	電話番号		
販売店	住所・店名		
	販売店様へ お手数でも必ずご記入の上お客様へお渡しください。		

120502

株式会社 カスタム
〒101-0021東京都千代田区外神田3-6-12
TEL (03)3255-1117 FAX (03)3255-1137
http://www.kk-custom.co.jp/

●直流電流測定 $\overline{A}$

(1) ファンクションスイッチを $\overline{A}$ の位置にセットします。

(2) SEL./REL. ボタンを押し、0調整をします。

(3) クランプを開き測定する導体を挟み込み、クランプ部が完全に閉じていることを確認します。

(4) 指示値が安定したら値を読み取ります。

●直流電圧測定 $\overline{V}$

(1) 入力端子にテストリードを差し込みます。

(2) ファンクションスイッチを $\overline{V}$ の位置にセットします。

(3) SEL./REL. ボタンを押し直流 ($\overline{DC}$) を選びます。

(4) テストリードを測定する部分に接触させます。

(5) 指示値が安定したら値を読みとります。

●交流電圧測定 $\overline{V}$

(1) 入力端子にテストリードを差し込みます。

(2) ファンクションスイッチを $\overline{V}$ の位置にセットします。

(3) SEL./REL. ボタンを押し交流 ($\overline{AC}$) を選びます。

(4) テストリードを測定する部分に接触させます。

(5) 指示値が安定したら値を読みとります。

●抵抗測定 Ω

(1) ファンクションスイッチを $\overline{\Omega}$ の位置にセットします。

(2) SEL./REL. ボタンを押し Ω のモードに合わせます。

(3) 入力端子にテストリードを差し込みます。

(4) テストリードを測定する部分に接触させます。

(5) 指示値が安定したら値を読みとります。

●導通チェック $\rightarrow$

(1) ファンクションスイッチを $\overline{\rightarrow}$ の位置にセットします。

(2) SEL./REL. ボタンを押し $\rightarrow$ のモードに合わせます。

(3) 入力端子にテストリードを差し込みます。

(4) テストリードを導通をチェックしたい配線や回路に接触させます。
導通抵抗が約100 Ω 以下のときブザーが鳴り導通していることを表します。

●ダイオードチェック $\rightarrow$

(1) ファンクションスイッチを $\overline{\rightarrow}$ の位置にセットします。

(2) SEL./REL. ボタンを押し $\rightarrow$ のモードに合わせます。

CUSTOM

デジタルクランプテスター C-03

取扱説明書

このたびは、当社のデジタルクランプテスターをお求めいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。なお、お読みいただきました後も、この取扱説明書を大切に保存されることをおすすめします。

(3) 入力端子にテストリードを差し込みます。

(4) テストリードを測定する部分に接触させます。

(5) 指示値が安定したら値を読みとります。

●HOLD (データホールド) ボタン

(1) HOLD ボタンを押すと、押した時点の指示値が固定 (ホールド) 表示されます。表示部に **OH** のマークが表示します。

(2) 再度、このキーを押すと解除できます。 **OH** のマークが消えます。

●SEL./REL. (入力切換/ゼロ調整) ボタン

このボタンは交流電流測定 ($\overline{A}$)、直流電流測定 ($\overline{A}$) 時にはゼロ調整 (REL.) ボタンとして機能します。

ゼロ調整機能の使い方

(1) 交流電流測定 ($\overline{A}$)、直流電流測定 ($\overline{A}$) 時に、SEL./REL. ボタンを押してください。AUTO RANGE 表示が消え、ゼロ調整が行われます。その時は、SEL./REL. ボタンを押す前の時のレンジに固定されます。

(2) ゼロ調整機能を解除するには、ファンクションスイッチを切り換え再度、交流電流測定 ($\overline{A}$) (または直流電流測定 ($\overline{A}$)) に切り替えてください。
(再度、SEL./REL. ボタンを押すと **REL** 表示が消えますが、測定レンジは固定されたままとなっています。)

4. 電池の交換

(1) 電池が消耗してくると表示部に **LO** マークが表示されます。
LO マークが表示されたら速やかに新しい電池と交換してください。
使用電池: 単4乾電池 (1.5V) ×2個

(2) 交換方法

a. 本体裏ケースにあるネジ (1本) をドライバーで外し裏ケースを開けます。

b. 電池収納部から古い電池を外し、新しい電池を収納します。

c. 裏ケースを元に戻し、ネジを締めてください。

安全にご使用いただくために

●本器を安全にご使用いただくために、次の事項を厳守してください。
不適切な使いかたをすると、怪我や死亡事故につながることもあります。
電気回路の取扱上の一般的な注意だけでなく、本項ならびに本取扱説明書に記載されているあらゆる注意事項について熟読し、操作の方法・注意事項を守ってください。

1. 本器の測定範囲を超えた入力信号は、絶対に印加しないでください。

2. DC60V、AC25V以上の電圧レベルでは、感電の恐れがありますので、濡れた手での測定は絶対に行わないでください。

3. 測定の前に、必ずファンクションの位置を確認してください。
また、ファンクションおよびレンジを切り換えるときは、必ずテストリードを測定回路からはずしてください。

4. 安全のため、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、十分に操作を理解してから、正しく使用ください。

5. 安全記号について

安全記号は、使用者が操作中に注意しなければならない事項について、 $\triangle$ 危険と $\triangle$ 警告の記号で示しています。本書をお読みになる時に、本記号の箇所については、一層の注意を払ってください。

$\triangle$ 危険

端子に危険な電圧が印加されているなど、使用者が感電事故を起こす可能性を避けるための記号です。

$\triangle$ 警告

本器を長期間にわたって損傷を防ぎ良好な状態でご使用いただくための記号です。

測定上の注意

共通の注意

$\triangle$ 危険

AC/DC高電圧回路は非常に危険ですから、測定の際は十分に注意してください。

アースと本器の端子間にACまたはDCの最大定格を超える電圧が加わらないように注意してください。

また、許容値を超える電圧を絶対に加えないでください。

$\triangle$ 危険

感電の危険がありますので、濡れた手では絶対に操作しないでください。

また、湿気の多い場所では使用しないでください。

$\triangle$ 警告

最大桁に“OL” (オーバーロード) が点灯したときは、測定値が選択したレンジの最大値を超えています。

5. オートパワーオフについて

通常は、各スイッチを操作しないと約30分後にオートパワーオフ機能が働き自動的に電源が切れます。
本器はオートパワーオフ機能を解除する事ができます。
オートパワーオフ機能の解除は、「電圧・抵抗・ダイオード・導通チェック」の各レンジの時に可能で、以下の手順を行うと、オートパワーオフ機能が解除できます。
(電流レンジの時は、オートパワーオフ機能を解除する事はできません)

(1) ファンクションスイッチを右側の“OFF”レンジに合わせます。

(2) SEL./REL. ボタンを押しながらファンクションスイッチを回し、測定するレンジに合わせます。

(3) “ピッ”という電子音が鳴ったら、SEL./REL. ボタンから手を離してください。
(電子音が鳴る前にSEL./REL. ボタンから手を離すと、オートパワーオフ機能を解除できません)

※再びオートパワーオフ機能を有効にさせるには、一度電源を切り再度電源を入れてください。

※ファンクションスイッチ左側の“OFF”レンジに合わせて上記操作を行ってもオートパワーオフ機能を解除する事はできませんので、ご注意ください。

6. 仕様

●一般仕様

測定機能: 交流電流測定、直流電流測定、交流電圧測定、直流電圧測定、抵抗測定、導通チェック、ダイオードチェック

測定導体径: ϕ 30mm

表示: 3 3/4桁液晶表示 4000カウント、単位/記号表示付き、オーバーレンジOL表示、極性 $-$ (マイナス) のみ表示、電池低下 **LO** マーク表示

測定周期: 3回/秒

レンジ切換: 自動

使用温度: 0~50℃ (確度保証範囲 23±5℃) 80%RH以下 (但し結露ないこと)

保存温度: -10~60℃、70%RH以下 (但し結露ないこと)

電池: 単4乾電池 (1.5V) ×2個

オートパワーオフ: 各スイッチの最終操作から約30分 (解除可能)

安全規格: IEC 61010-1、600V CAT III

本体寸法・質量: W71×H190×D37mm、約220g (電池含む、リード線除く)

付属品: 単4乾電池、取扱説明書、テストリード、収納ケース

※本器に内蔵の電池は出荷時動作確認用です。初めてご使用いただく際には必ず新しい電池と交換してください。

$\triangle$ 危険

測定中は、テストリード先端のピンに触らないでください。また、被覆の傷ついたテストリードは使用しないでください。

直流電圧測定の注意

$\triangle$ 危険

アースと本器の端子間に最大定格を超える電圧が加わらないように注意してください。

また、許容値を超える電圧を絶対に加えないでください。

交流電圧測定の注意

$\triangle$ 危険

アースと本器の端子間に最大定格を超える電圧が加わらないように注意してください。

また、許容値を超える電圧を絶対に加えないでください。

抵抗測定時の注意

$\triangle$ 危険

抵抗を測定する前に、必ず被測定回路の電源を切り離して、コンデンサを放電してください。電池を取り外して、電源コードを抜くのが最善の方法です。

あやまって電圧を加えないように注意してください。

導通チェック中の注意

$\triangle$ 危険

電圧のある回路や電線で導通チェックを行わないでください。

あやまって電圧を加えないように注意してください。

ダイオードテスト中の注意

$\triangle$ 危険

電圧のかかっているダイオードをテストしないでください。

テストする前に、測定する回路から電源を全て切離し、コンデンサを全て放電してください。

その他の注意

電池の交換

$\triangle$ 危険

本器の電源を必ずOFFにしてください。

$\triangle$ 危険

カバーを取付け、ネジを閉めてから、測定を行ってください。

テストリードの取扱について

$\triangle$ 危険

測定中は、テストリードの先端のピンには触らないでください。また、被覆の傷ついたテストリードは、使用しないでください。

修理および改造について

$\triangle$ 危険

当社もしくは当社が委嘱した者以外の修理、回路上の改造は危険ですから行わないでください。

1. 各部の名称と説明

2. ご使用の前に

(1) ご購入後始めに使用される場合、電池は装着済みになっていますので、そのまますぐにご使用できます。

(2) 測定を終了したときは、ファンクションスイッチをOFFの位置に戻して電源を切ってください。

3. 測定方法

$\triangle$ 注意

感電の危険があります。

●電流を測定するときは、テストリードを入力端子から外してください。

●交流電流測定 $\overline{A}$

(1) ファンクションスイッチを $\overline{A}$ の位置にセットします。

(2) クランプを開き、測定する導体を挟み込み、クランプ部が完全に閉じていることを確認します。

(3) 指示値が安定したら値を読み取ります。

◆安全にご使用いただくために…

測定カテゴリ (過電圧カテゴリ) について

測定器を安全に使用するため、IEC61010では測定カテゴリとして、使用する場所により安全レベルの基準をCAT I~CAT IVで分類しています。概要は下記ようになります。

CAT I : コンセントからトランスなどを経由した機器内の二次側の電気回路

CAT II : コンセントに接続する電源コード付機器 (可搬形工具・家庭用電気製品など) の一次側回路

CAT III : 直接分電盤から電気を取り込む機器 (固定設備) の一次側および分電盤からコンセントまでの回路

CAT IV : 建造物への引込み回路、引込み口から電力量メータおよび一次側電流保護装置 (分電盤) までの回路

数値の大きいカテゴリは、より高い瞬時的なエネルギーのある電気環境を示します。そのため、CAT IIIで設計された測定器はCAT IIで設計されたものよりより高い瞬時的なエネルギーに耐えることができます。カテゴリの数値の小さいクラスの測定器で、数値の大きいクラスに該当する場所を測定すると重大な事故につながる恐れがあることを示しています。当社の製品は一部のものを除いて、原則としてこのカテゴリ表示を行っておりますので、下位のクラスの製品を決して上位のカテゴリで使用しないでください。特にCAT Iの測定器をCAT II、III、およびIVに該当する場所の測定に用いないでください。

測定カテゴリはIEC60664の過電圧カテゴリに対応します。